

「たかさぎ能」について

吉永哲郎

高崎は単なる商都でなく、能楽と深いかかわりをもった都市です。市の重要文化財に「清水寺の能楽の絵馬」が指定されています。この絵馬は、狩野派の狩野常信が描いた能の「熊野」の一場面です。喜多流の能を好んだ高崎藩主安藤対馬守重博が、元禄5年(1692)に奉納したものです。またその後の藩主松平輝貞、間部詮房らも能楽をことのほかたしなんでいます。その影響でしょうか、城下の町中に謡の師匠が多く住み、商人は教養と品位を高めるために、謡と俳諧とを競って身につけようとしたようです。今にその商人の風流の面影を残しているのが、この「たかさぎ能」で、それを26回も続けていることこそ、商都高崎の心意気だと思います。

次回、たかさぎ能のご案内

「第27回 たかさぎ能」

開催 平成24年10月20日(土)

会場 群馬音楽センター

演目 能 | 鉢木 狂言 | 惣八
梅若玄祥 | 山本東次郎

内容等は予告なく変更になることもあります。ホームページ等でご確認ください。
たかさぎ能ホームページ <http://www.takasaki-nou.jp>

御協賛いただいた方々 (50音順 敬称略)

下記の方々に多大なご協力をいただきました。
深く御礼申し上げます。

医療法人 愛寿会
真中記念クリニック
有限会社
アリガコーポレーション
有限会社 市川克美会計事務所
株式会社 糸庄
株式会社 井ノ上
有限会社 魚仲
NTT東日本群馬支店
エバーグリーン 株式会社
株式会社 岡村
関東いすゞ自動車 株式会社
菊屋 株式会社
クシダ工業 株式会社
株式会社 グラスロード社
株式会社 倉屋
グリーンヒル高崎
株式会社 群成舎
株式会社 群馬銀行 高崎支店
群馬トヨタ自動車 株式会社
群馬流通サービス 株式会社
株式会社 原人社
国際警備 株式会社
小松総業 株式会社
有限会社 小森谷商店
サン 株式会社
株式会社 サンバック
島津会計税理士法人
少林山達磨寺
スギウラ 株式会社
株式会社 精真社
株式会社 成電社
太陽コンクリート工業 株式会社

社団法人 高崎市医師会
高崎観音山商業組合
高崎商店街連盟
高崎信用金庫
高崎倉庫 株式会社
高崎電気工事協同組合
高崎白衣大観音慈眼院
高崎弁当 株式会社
株式会社 高長組
株式会社 竹中組
だんべえ本舗 風間堂
合名会社 豊田園
トヨタカローラ高崎 株式会社
有限会社 花のハットリ
パブリッシュ出版 株式会社
ピアノプラザ群馬
株式会社
ビジネスホテル寿々屋
株式会社 プリエッセ
有限会社 フルセール
株式会社
ホテルメトロポリタン高崎
正木整形外科医院
マスト 株式会社
三山鋼機 株式会社
株式会社 明水設計
株式会社 モテキ
吉井電気 株式会社
株式会社 ヨシダ
株式会社 ラジオ高崎
株式会社 レンタルランド
和光化学 株式会社

第26回たかさぎ能



平成23年9月10日(土)
群馬音楽センター

「たかさぎ能」の歴史

たかさぎ能(薪能)実行委員会

そもその始まりは、白衣大観音。建立から50年を迎えた1986年、その節目を記念して始められたのが「たかさぎ薪能」です。毎日高崎の街を見守ってくださる観音さまに奉納すると共に、日本の伝統文化である「能」を高崎市民に楽しんでもらいたいと、当時の観音山連絡協議会を中心に企画されました。

第1回は観音山を会場に開催。秋の夜長、篝火の灯りに浮かび上がる能舞台の後ろに凜と立つ白衣大観音、漆黒の闇に響きわたる音色。幽玄というにふさわしい世界が凜り広げられ、多くのファンをもつようになりました。第13回からは市庁舎前広場、第21回からは天候に左右されない群馬音楽センターへ会場を移しました。

そしてもう一つの魅力は、行政・地元企業・能を愛する市民によって大切に守られてきたということ。第22回からは実行委員会が責任をもって運営することになり、現在に至ります。

十四時二十分

演目解説

吉永哲郎

休憩十分

あいさつ

十五時

仕舞

観世流

小袖曾我

伊藤 嘉章

小田切 康陽

内藤 幸雄

松山 隆之

古川 充

舍利

角当 直隆

鈴木 啓吾

川口 晃平

地謡

十五時十五分頃

狂言

大蔵流

二人大名

シテ(通りの者)

山本 東次郎

アド(大名甲) 山本 則重

アド(大名乙) 山本 則秀

二人大名

供を連れずに都へ上る二人の大名は途中、太刀を持つ召使いが欲しいと、行きずりの男を無理矢理脅して太刀持ちにしています。

あまりの理不尽に怒った男は、隙を見て持たされた太刀を抜き、大名達を脅します。

両者の立場は逆転し、男は大名たちを騙つてやろうと、身ぐるみ剃いで、鶏や犬や起き上がり小法師の真似をさせます。

命惜しさに嫌々ながら言うなりになっていた大名たちでしたが、次第に重く余分なものを脱ぎ捨てることで、

心も軽やかになってゆくのでした。

休憩十五分

十六時頃

能

観世流

ツレ(逆髪) 下平 克宏

シテ(蟬丸) 梅若 玄祥

蟬丸

ワキ(延臣清貞) 宝生 欣哉

大鼓 柿原 弘和

小鼓 鵜澤 洋太郎

笛 藤田 貴寛

替之型

琵琶之会釈

ワキツレ(興泉) 野口 能弘

ワキツレ(興泉) 野口 琢弘

アイ(博雅の三位) 山本 則俊

後見 松山 隆之

小田切 康陽

地謡

川口 晃平

古川 充

伊藤 嘉章

角当 直隆

山崎 正道

鈴木 啓吾

蟬丸

帝から盲目の皇子、蟬丸を逢坂山に捨てるよう命じられた清貫は同情しつつも蟬丸を逢坂山に連れて行きます。髪をおろし、藁と笠

と杖で身づくろいさせると、清貫は心ならずも蟬丸を残し帰つてゆきます。一人になった蟬丸は博雅の三位に藁屋に導かれ、琵琶を抱き

泣き沈みます。

一方、蟬丸の姉宮、逆髪は生まれつき髪が逆立っていて、その為に心が乱れさまよい歩いています。逆髪が都を出て逢坂山にさしかかると

どこからともなく美しい琵琶の音が聞こえてきます。その音色に引かれるように藁屋に近づくと中には弟宮、蟬丸の姿がありました。

二人は互いの身の上を嘆き悲しみ、慰め合いますが再び別れてゆきます。

今回は替之型、琵琶の会釈の小書きで上演致します。替之型はツレの蟬丸の位上がり、逆髪と両シテになります。

琵琶の会釈は蟬丸が扇を琵琶になぞらえた型をするときに笛のアシライが入ります。

十七時二十分頃

終演予定

主催 たかさき能 翁能 実行委員会
共催 (社)高輪観光協会 / 高輪商工会議所
後援 高輪市教育委員会 / JR東日本高輪支社 / 上毛新聞社 / 群馬テレビ / ジェイコム群馬 / FMぐんま / ラジオ高輪